

機関番号：37503

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21830164

研究課題名（和文） カンボジアにおける NGO リーダーシップの変革と育成に関する研究

研究課題名（英文） NGO Leadership Change and Development in Cambodia

研究代表者

木村 力央（KIMURA RIKIO）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・助教

研究者番号：50517034

研究成果の概要（和文）：

本研究は、カンボジアの NGO リーダーはフォロワーによりよく仕えるために、どのようにリーダーシップを変革するかを考察し、以下のような発見があった。リーダーは、危機的な出来事やその他の経験を受け入れる用意があり、またそのような経験を進んで省察する態度が必要である。特に、これまで当然と考えてきた仮定や前提を吟味することが要求される。そのような振り返りから生まれた新しいリーダーシップのモデルを、自分が置かれている状況のなかで実験的に試みることにより、どのモデルがフォロワーに仕えるのに適しているかを判断することができる。

研究成果の概要（英文）：

This research considers how Cambodian leaders of NGOs in Cambodia change their leadership styles towards better serving their clients. The findings appear to suggest that leaders need to be open to disturbing events and other experiences and to be willing to reflect on those. Particularly, leaders seem to need to reflect on their assumptions. It appears that they need to experiment with new models of leadership, which emerge from their reflection, in their particular contexts so that they could assess which model would better serve their clients.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	830,000	249,000	1,079,000
2010 年度	920,000	276,000	1,196,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,750,000	525,000	2,275,000

研究分野：コミュニティー開発、社会開発、国際開発、成人教育、NGO 研究、カンボジア、リーダーシップ研究

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：成人教育、国際開発、ライフ・ストーリー、NGO、カンボジア、意識変容の学習、リーダーシップ、市民社会

1. 研究開始当初の背景

(1) 先行研究の状況

日本また欧米において市民社会の一代表

である NGO のリーダーシップに関する研究は多くない。NPO 研究に関する日本で唯一の学術専門誌であるノンプロフィット・レビュー

に記載された文献でリーダーシップを直接的に扱ったものは、初版が刊行された 2001 年から当科研究費申請時までで平塚(2006)しか見当たらず、また途上国における NGO リーダーシップを扱ったものは皆無である。欧米の学術誌のオンライン検索においても、NGO リーダーシップを直接的に扱った文献は多くはなく、その内、途上国のリーダーシップを扱ったものは指で数えるほどしかない。

特にカンボジアにおいては、NGO セクターは市民社会のパワフルなアクターであり、また国全体の開発援助に占める割合も大きい。しかしカンボジアの NGO リーダーシップの研究は、本研究の研究者である Kimura (2007) によるサーバント・リーダーの育成に関するものしかない。

(2) NGO リーダーシップ

NGO リーダーに求められるスタイルは、フォロワーの決定への参加を促す「参加型リーダーシップ」(Smillie & Hailey, 2002a)、フォロワーをビジョンに向けてエンパワー/モチベートする「変革型リーダーシップ」(Hailey & James, 2004)、組織学習を促す「学習リーダー」(Smillie & Hailey, 2002b)などがある。より重要なのは、NGO が置かれている環境の多様なデマンドに合わせて、カメレオンの様にリーダーシップ・スタイルを適宜変化させる「状況アプローチ」であると Fowler (2000)そして Hailey & James (2004)は指摘している。

(3) カンボジアの NGO リーダー

James (2008)は、リーダーは相反するリーダーシップ概念、つまり文化特有のリーダーシップ観、モデルとしての政治リーダー、そして欧米からのマネジメント理論のはざままで揺れ動いていると議論している。例えばカンボジア特有のヒエラルヒー制度や恩顧主義(庇護-随従関係)などは、文化特有のリーダーシップ観であり、また政治リーダーによく見られる。これらは、よりフラットな関係に基づく「参加型リーダーシップ」あるいはフォロワーのエンパワーメントを促す「変革型」リーダーシップと相反するものである。また何よりも過去をベースとするカンボジアの保守主義文化は、状況によってリーダーシップ・スタイルを変化させる状況アプローチとは相容れないであろう。1990 年代初めからのカンボジアでの NGO セクターの出現において、欧米の NGO が広くそして深く関わったことから、カンボジアの NGO セクターで用いられているマネジメント理論は欧米のものが現在でも多い。それらはカンボジア特有のリーダーシップ観や政治のシーンで見られるリーダーシップとは対極的であることが多い。

(4) NGO リーダーの変革の必要性

まとめると NGO リーダーに求められるスタ

イル(desirable leadership styles)と、カンボジアの NGO リーダーが実際に使用しているリーダーシップ・スタイル(leadership-styles-in-use)の間にはギャップがあり、そのために「リーダーが変革する」ことはカンボジアの NGO にとって重要な課題となっている。NGO リーダーは、主に自分の体験を振り返ること(experience-based learning)によって自己変革する(Kimura, 2007; James, 2008)。特に、自分の価値観・信念・仮定を内省・修正することによって自己変革を促す「意識変容の学習」(Mezirow, 1990)などの成人教育プロセスが不可欠であると予想される(Kimura, 2007; James, 2008)。(5) 学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

途上国における NGO リーダーシップの実証的先行研究は、James (2008)によって東アフリカ(マラウィ、ウガンダ、ケニヤ)、そして Smillie & Hailey (2002a)、Smillie & Hailey (2002b)によって南アジア(インド、パキスタン、バングラデシュ)でしか実施されていない。そのような先行研究状況の中で、本研究は東南アジアで初めて実証的研究を行うことにより、知識ベースの拡大を目指す。実用的な面では、カンボジアの市民社会を担う NGO リーダーの育成に有意義な示唆をフィードバックする。

2. 研究の目的

本研究は、カンボジアにおける NGO リーダーシップ、特に「NGO リーダーはどのように変革するか」に焦点を当てる。しかしカンボジアのヒエラルヒー的社会構造ならびに NGO とそのドナー間の権力関係の脱構築は、「NGO リーダーはどのように変革するか」というシンプルなりサーチ・クエスションではなく、よりクリティカルな研究を要請する。そのよりクリティカルな問いは「フォロワーによりよく仕えるために NGO リーダーはどのように変革するか」である。つまり、上向きのアカウントビリティが求められる社会環境で、NGO リーダーはどのように下向きのアカウントビリティを強化できるかを問う。さらに、この問いのインプリケーション、つまり「どのようにそのような仕える NGO リーダーを育成するか」も本研究で探究する。

3. 研究の方法

組織リーダーシップは、ある特定の地理的、文化的、組織的文脈で行使される。同じように、意識変容の学習も文脈に依存する、そして個人的なプロセスである(Mizirow 2000)。従って本研究は、解釈学的認識論に依拠し、リーダーシップの変革のストーリーとそれに付随する出来事を文脈に埋め込まれたプロセスとして捉え、そしてそのような経験は

リーダーにとってどのような意味をなすのか理解しようとするライフ・ストーリー・インタビューを援用する。

ライフ・ストーリー・インタビューに先立って平成21年9月に、カンボジアのNGOリーダーシップとその育成に精通しているキー・インフォーマント16人にインタビューを行った。それによって、リーダーシップ、その変革そして育成に関して予備的データを収集・分析した。その分析結果と先行研究を基にNGOリーダーへのインタビュー調査を計画した。インタビューするNGOリーダーは、「2年以上NGOディレクターあるいはCEOとしての経験があり、尊敬されている(well-respected)者」という基準で、キー・インフォーマントに推薦してもらった。平成22年2-3月に、13人のNGOリーダーへライフ・ストーリー・インタビューを行った。

本研究は、少なくとも2人のキー・インフォーマントが推薦した3人のリーダーに焦点を当てた。それらのリーダーはそれぞれ違った分野のNGOに属しており、その内訳は男性2人、女性1人である。インタビューの内容は、彼らが皆、意識変容の学習とリサーチ・クエスションの枠組みに合致するリーダーシップの変革をしたことを示している。またインタビューした他の何人かのリーダーが彼らと同じようなリーダーシップの変革をしていることから、他のリーダーを代表するようなサンプルであると言える。

ライフ・ストーリー・インタビューは、リサーチ・アシスタントにより逐語的なトランスクリプトに変換してもらった。本研究はデータに対して、テーマ分析を行った。(Elliot 2005; Riessman 2008)。特に分析の初期においては、被調査者の「声」を重視する分析アプローチを用いた(Aktionson 1998; Chase 2005; Merrill & West 2009)。特に、ストーリーを理論的枠組みと関連付ける前に、音声記録を何度も聞き直し、トランスクリプトを何度も読み直すことを重視するというMerrill & West (2009)が提案したステップを踏んだ。すなわち、すぐに前もって設定されたテーマに分類するのではなく、ライフ・ストーリーを分析する中から創発する(emerging)テーマを捕え、そのようなテーマを結び付けていった(Atkionson, 2001; Chase 2005)。分析ステップの大部分において、質的データ分析ソフトウェアであるNvivoを使用した。

4. 研究成果

研究目的の一つである「フォロワーによりよく仕えるためにNGOリーダーはどのように変革するか」の問いへの発見は以下のものであった。リーダーは、危機的な出来事やその他の経験を受け入れる用意があり、ま

たそのような経験を進んで省察する態度が必要である。特に、これまで当然と考えてきた仮定や前提を吟味することが要求される。そのような振り返りから生まれた新しいリーダーシップのモデルを、自分が置かれている状況のなかで実験的に試みることにより、どのモデルがフォロワーに仕えるのに適しているかを判断することができる。

この発見はサンプル数の少なさ等から一般化はできない。しかし文献調査そしてキー・インフォーマント・インタビューも分析に組み込んでいることから、この発見はカンボジアの他のリーダーそして彼らの状況に、関連があり、役に立ち、そして適用できる可能性を投じる。よって上述の発見は、もう一つの研究目的である「どのように仕えるNGOリーダーを育成するか」の問いへの間接的な提言となり、NGOリーダーの育成に有意義な示唆を提示するものと考えられる。英語による最終的な研究論文を通して、カンボジアのNGOセクターへフィードバックする予定である。

引用文献

- Atkinson, R. (1998). *The life story interview*. Thousand Oaks: Sage Publications.
- Atkinson, R. (2001). The life story interview. In J. F. Gubrium and J. A. Holstein (eds.) *Handbook of interview research: Context & method*, Thousand Oaks: Sage Publications.
- Chase, S. E. (2005). Narrative inquiry: Multiple lenses, approaches, voices. In N. K. Denzin and Y. S. Lincoln (eds.) *The Sage handbook of qualitative research*, Thousand Oaks: Sage Publications.
- Elliot, J. (2005). *Using narrative in social research: Qualitative and quantitative approaches*. London: Sage Publications.
- Fowler, A. (2000). *The virtuous spiral: A guide to sustainability for NGO's in international development*. London: Earthscan.
- Hailey, J. & James, R. (2004) "Trees die from the top": International perspectives on NGO leadership development. *Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations* 15, (4), 343-353.
- 平塚力、2006年、「非営利組織の成長と経営者の役割-社会的企業家としての役割を中心に」『ノンプロフィット・レビュー』6, (1&2), 15-24.
- James, R. (2008). Leadership development inside-out in Africa. *Nonprofit Management & Leadership* 18, (3),

359-375.

- Kimura, R. (2007). Developing Christian relief and development NGOs' Cambodian staff toward becoming servant leaders, Proceeding for 2008 Servant Leadership Research Roundtable, 2008 Annual Roundtables of Contemporary Research & Practice, Regent University.
- Merrill, B. & West, L. (2009). *Using biographical methods in social research*. London: Sage Publications
- Mezirow, J. (1990a). How critical reflection triggers transformative learning. In J. Mezirow & Associates (Eds.) *Fostering critical reflection in adulthood: A guide to transformative and emancipatory learning*. San Francisco: Jossey-Bass Publishers.
- Mezirow, J. (2000). Learning to think like an adult: Core concepts of transformation theory. In J. Mezirow and Associates (eds.) *Learning as transformation: Critical perspectives on a theory in progress*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Riessman, C. K. (2001). Analysis of personal narratives. In J. F. Buber and J. A. Holestein (eds.) *Handbook of interview research: Context & method*. Thousand Oaks: Sage Publications.
- Smillie, I. & Hailey, J. (2002a) *Managing for change: Leadership, strategy, and management in Asian NGOs*. London: Earthscan.
- Smillie, I. & Hailey, J. (2002b) Learning leaders: Key to learning organization. *Development in Practice* 12, (3 & 4), 398-408.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

木村力央、NGO 研究の批判理論の視点からのレビュー(1987 年-2010 年)、国際開発研究、査読有、19 巻, 2010, 31-45

[学会発表] (計 2 件)

①木村力央、Life Stories of NGO Leadership Change in Cambodia: From the Perspective of Transformative Learning、アジア太平洋国際学会年次研究大会報告論文集、2010 年 11 月 21 日、立命館アジア太平洋大学

②木村力央、Life Stories of NGO Leadership Change in Cambodia: From the

Perspective of Transformative Learning, Standing Conference on University Teaching and Research in the Education of Adults (SCUTREA)年次研究大会報告論文集、2010年7月8日、ウォーリック大学(英国)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 力央 (KIMURA RIKIO)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・助教

研究者番号：50517034